

少子社会における養育力の背景とその育成に関する研究(1) -ワーク・ライフ・バランスと養育力に関する調査-

母子保健研究部 齋藤幸子
客員研究員 宮原 忍
目白大学 内山絢子
嘱託研究員 近藤洋子（玉川大学）
人間総合科学大学 星山佳治
東京都幼・小・中・高・心性教育研究会 竹井 操

要 約

少子化現象および子どもを取り巻くさまざまな問題を「個人および社会の養育力が低下した状態である」ととらえ、その背景要因を知る事を目標に調査を実施した。大学生とその親、および乳幼児をもつ親を対象に、EPSI（エリクソン心理社会的段階目録検査）およびSOC（首尾一貫感覚）を用いたアンケート調査を行い、有効回答443件について、大人観、育児観、生活バランス感覚を軸に分析した。

1. EPSI得点の高い群、すなわち人格の成熟度が高い群は、育児を楽しいと感じ、人付き合いが得意であった。現在の自身の生活バランスに満足していた。EPSI・SOC得点の低い群は、大人として扱われていないと感じている割合が高かった。

2. 大人観（一人前の大人とはどういうことだと思うか）では、「責任ある行動」「社会常識が身に付く」「親からの経済的独立」が、上位を占め、養育性を表す「年下の世話をする」「家族を養う」などの選択肢は下位に留まった。大人になったと感じた時期は、就職をしたときが多く、年齢では22歳頃であった。大学生の6割はまだ大人になつたと感じていなかった。

3. 生活バランスのとりかたは、「1週間でバランスがとれるのがよい」と答えた割合が最も多い一方、「バランスがとれなくてもよい」という意見もみられた。生活バランスに満足している群は、育児が楽しい等、肯定的育児観を持っていた。

キーワード：少子化、養育力、ジェネラティビティ、ワーク・ライフ・バランス、EPSI, SOC,

Generativity and Decreased Fertility of Japanese Society: A Survey on the Work-life Balance and the Generativity of Younger Generation and Their Parents

Sachiko SAITO, Shinobu MIYAHARA, Ayako UCHIYAMA, Yoko KONDO, Yoshiharu HOSHIYAMA, Misao TAKEI

Abstract : The decrease in fertility and in the childhood population is one of the biggest problems of Japanese society in recent decades. The decreased fertility might imply a decrease in energy of succession, and a loss of adulthood images is suspected to be a cause. Therefore, the images of adulthood, child-rearing, and work-life balance were surveyed with EPSI(Erickson psychosocial stage inventory) and SOC(Antonovsky's Sense of Coherence) on the Japanese younger generation and their parents.

1. The people with high EPSI, who are highly matured, found child-rearing to be pleasant, and were sociable, satisfied with their work-life balance. The people with low EPSI, or SOC, did not feel themselves treated as adults.

2. The images of adulthood: The first three most frequent answers were "responsible behavior", "social common sense", and "economical independence". "Care for minors", "support a family", which were strongly related to generativity, ranked rather low. The time when they felt themselves adult was most frequently "when they find a job", and around 22 years of age. Sixty percent of college students did not feel themselves adult.

3. Getting work-life balance: what most people thought best was to get balance every week. On the other hand, some answered the life-balance is not important. People with a satisfactory work-life balance had positive thoughts in regards to child-rearing.

Keywords : Decreased Fertility, Child-rearing, Generativity, Work-life balance, EPSI, SOC

I. 研究目的

少子対策は、育児環境を改善する方向には向いているが、出生率の向上という点では未だ効果は現れていない。一方、虐待、いじめ、自殺など子どもの問題は益々深刻化していると行って過言ではないだろう。本研究は、少子化現象および子どもを取り巻くさまざまな問題を「個人および社会の養育力が低下した状態である」ととらえ、その背景要因を知る事を目標としている。

養育力とは何かについては、E.H. エリクソンによる人生発達段階、成人期の課題である“ジェネラティビティ”をその中核と考えている。ジェネラティビティとは、邦訳が「生殖性」や「世代性」などとなっており、「生み出すこと、生産性、創造性」を包含する概念である。また「生殖性対停滞という対立命題から生まれる徳は「世話」(care for)であるとされている¹⁾。このジェネラティビティを養育力の中核概念に据え、養育力とは人格の発達に伴って人に備わるものであり、人格の成熟した人は、養育力も高いという仮説のもとに、これまでも調査研究を行ってきた。人格の成熟度の指標としてEPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査)²⁾を使用し、結婚の意思、希望子ども数、性行動、育児観など次世代育成に関する多くの事柄に正の関連が認められている^{3)~8)}。また、小此木は、わが国の状態について、次世代を育む心の危機として、“ジェネラティビティ・クライシス”と表現している⁹⁾。

以上の先行研究を踏まえ、個人のもつ様々な価値観と、その人の一生における「次世代を育てること」との関連を調べることによって、わが国の養育力低下の要因を検討し、養育力の育成に寄与する資料を収集する事を研究目的とする。

II. 方法および対象

本報告では、現在に即した新たな2つの視点で、養育力の分析を行った。

第1の視点は、大人観である。当然の事ながら、現在のわが国の状況は、エリクソンが人生発達段階の図式を作った頃とは、時代も風土も異なっており、人の成熟を問題にするにあたり、現時点におけるわが国の人々の大人観や大人になるということへの認識を確認しておくことが必要である、という点である。

第2の視点は、生活のバランス感覚である。平成19年度厚生労働省主要施策、少子化対策の総合的な推進の第1に「少子化の流れを変えるための働き方の見直し」が掲げられている。その第1項が「子育てとの両立など仕事と生活の調和」であり、いわゆるワーク・ライフ・バランス施策である。内容は、育児休業、短時間勤務、等の制度を利用しやすい職場風土作り、事業所内託児施設の設置、パートタイム労働者の均衡ある処遇や能力開発

の推進とされている¹⁰⁾。このような制度を利用し、仕事と子育てを両立しようとするか否は、次世代を育てるといふ事が人々の生活でどう位置づけられるかに関わっているのではないだろうか。養育力と生活のバランス感覚について検討することとした。

1. 予備調査

大人観や大人になるということへの認識を明らかにするために、大学生を対象に予備調査を行った。その結果をもとに、本調査の調査項目を決定した。

2. 次世代育成と生活バランスに関する調査

仮説：人格の成熟と、大人観、ワーク・ライフ・バランス感覚、養育力は関連がある。

調査対象：大学生とその父母、および幼児をもつ父母を対象とした。調査場所は、予備調査とは異なる都内の大学1カ所、都内の幼稚園1カ所および横浜市の認可保育所2カ所であった。調査票の配布数は1,514、回収数487、回収率32.2%であった。

調査方法：アンケート自計式、大学生はその場で回収、父母は郵送にて回収した。

調査内容：大人観、子育て観、ワーク・ライフ・バランス感覚、EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査)²⁾、SOC (首尾一貫感覚)¹¹⁾。調査票を稿末に添付した。

倫理的配慮：アンケートは無記名で、個別の封筒を配布し、直接調査元に回収できるようにした。データは統計的に処理し、個人が特定出来ないように配慮した。

III. 研究結果

1. 予備調査

予備調査として、大学生を対象に「若者の将来についての質問紙」調査を行った。対象は177名(男性53名、女性84名、不明40名)。調査内容は、大人観、結婚観、将来希望する子どもの数などであった。

「一人前になる」とはどういうことかと思うかを記述回答で求め、KJ法により分類した結果を表1に示した。件数の合計は310件で大分類項目毎の割合は、1. 経済的要素58%、2. 社会的(対人)関係44%、3. 判断力・責任35%、4. 精神的自立56%、5. 制度(20歳になったら)2%であった。経済的な自立が最も多かったほか、殆どの意見が1-4の大分類項目に集約され、「経済的・精神的に自立し、判断力や責任ある行動が身につく事」が、大学生の持つ大人観であるといえよう。一方、本報告のテーマである養育力に関する項目としては、「15. 自分以外の人を養う」「22. 家族ができる」「51. 周りの人のことが考えられる」など挙げられるが、このような記述の割合は3-6%と多くはなかった。

大人観として、結婚の記述はわずかであったが、結婚の意思についての設問では、「結婚したい」67%、「結婚したくない」10%、「わからない」23%であった。結婚

する理由（記述回答）は、適齢期意識41%、社会的理由16%、子どもが欲しい14%などが上位を占め、結婚規範は比較的健在のようであった。結婚したくない理由は、拘束感、自己実現の妨げ、将来見通しのなさ、などであった。

将来希望する子どもの数は2人が49%と最も多く、次いで3人18%、1人3%、4人以上6%、いない13%、わからない12%であった。それぞれの理由（自由記述回答）を表2に示した。「子ども1人」希望の理由は、「経済的ゆとり」などがあげられ、2人希望の理由としては、「一人ではかわいそう」「自分の体験から」など情緒的理由や、「経済的には2人がベスト」「男女一人ずつ」等のバランス感覚があげられた。「いない、わからない」の理由は「子育てに対する不安感」や、女性では「生みたくない」があげられた。

以上の予備調査から大学生の持つ大人観や子育て観には、経済的、社会的要素が多く、世代性・養育性を表す要素は少ない事が分かった。「結婚したくない」「子どもはいない」が10%であり、その理由は、将来の見通しのなさ、子育てに対する不安などがあげられている。これらの理由を解消する方策を考案することが次世代の親への支援と言えよう。また、希望する子どもの数は、情緒的・感覚的理由によるものが多いが、将来どのように変化が起きるか否か、追跡調査を行うことが可能であれば、子どもの数の決定要因の一部が解明されよう。

2. 次世代育成と生活バランスに関する調査

予備調査および先行研究をもとに、調査票（稿末添付）を作成し、大学生とその親、乳幼児の親を対象に質問紙調査を行った。EPSIとSOCに欠損値のなかった443件を集計対象とし、性・年齢別、EPSI得点・SOC得点の高低群別、対象群（大学生、大学生の親、乳幼児の親）別などにより、育児観、大人観、生活バランスについて分析した結果を報告する。Q12大人として扱われるか、Q14世代継承観、Q15育児観、Q17生活バランス満足度は4件法、Q20.EPSIが5件法、Q21.SOCが7件法で、有意差検定はWilcoxon, Kruskal-Wallisの順位和検定、多重比較はScheffeの方法で行った。以下有意判定の危険率は、*は $p < 0.05$ 、**は $p < 0.01$ を表し、 $p < 0.05$ 以下を有意差ありとした。

2-1. 対象の属性

回答者の性別内訳は、学生199名（男性63名、女性136名）、大学生の親55名（父21名、母34名）、乳幼児の親189名（父66名・母123名）であった。

年齢の分布は、学生が18歳～29歳で平均20.0歳、学生の親は42～78歳で平均52.8歳、乳幼児の親は、26～56歳で平均36.4歳であった。

職業は、大学生の父親の76.2%、乳幼児の父親の87.9%が「常勤の勤め人」であった。大学生の母親は「非常勤・パートの勤め人」41.2%、「専業主婦」32.4%、乳幼児の母親は「非常勤・パートの勤め人」17.1%、「専業主婦」65.9%であった。

最終学歴で「大学卒以上」は、大学生の父親95.2%、乳幼児の父親65.1%、大学生の母親32.3%、乳幼児の母親27.6%であった。

対象者の家庭の構成は、学生の家庭は祖父母同居が2割程度あるが、乳幼児家庭は5%程度である。学生のきょうだい数（本人を除く）1.35人、乳幼児家庭の子ども数は、1.8人となっている。

回答者が育った家庭の家族人数を最も多い時期で回答を求めた結果、学生は4.98人家族、学生の親5.50人家族、乳幼児の親4.87人家族であった。

2-2. EPSI得点・SOC得点

1) 性別・対象群別EPSI得点・SOC得点

対象のEPSI得点・SOC得点を性別、対象群別に示した（表3-1,表3-2）。EPSI得点は男性が高く（*）、SOCは性差がない。対照群別では、EPSI得点・SOC得点ともに、学生—学生の親、学生—幼児の親間で差があり、学生に比べ親の点数が高くなっている。生殖性（ジェネラティブティ）については、学生—幼児の親間で差がなく、学生の親のみ他群に比べて得点が高かった。EPSI得点に性差があり、年齢と正の相関があることは我々が過去に行った調査と一致していた^{5) -10)}。

2) EPSI得点・SOC得点と他の設問との相関

EPSI得点・SOC得点と他の主な設問項目の相関係数を表4に示した。以下、中程度以上の相関が認められた項目について述べる。

Q12「大人として扱ってくれないと感じることがあるか」は、「1.ない、2.たまにある、3.時々ある、4.いつもある」から選択を求め、数字が大きいほど、大人としてあつかわれていないと感じている事になる。先生・上司、親、目上の人、恋人・配偶者、同年・年下、その他社会の中での、いずれも負の相関が認められ（-0.327～-0.591）、EPSI得点・SOC得点の低い人ほど、大人扱いされていないと感じていた。

Q13どのような時社会の一員と感じるか、およびQ14世代継承観では、中程度以上の相関は認められなかった。

Q15育児観では、「10.子育ては楽しい」でEPSIと(0.358)、「13.私は人付き合いが得意である」でEPSI・SOCと相関が認められた(0.434, 0.307)。

Q16「仕事や家事へのエネルギーを注ぐ程度」では、「仕事」「家事」「自分のため」「家族や身近な人のため」「ボランティアなど社会的活動」について10段階で回答を求め、合計得点がEPSIと相関が認められた(0.371)。

Q17「生活バランスの満足度」は「1.満足している、

2. まあ満足している, 3. やや不満である, 4. 不満である」から選択を求めたため、負の相関となっており、EPSI・SOCが高いほど生活バランスの満足度は高い(-0.356, -0.338)と考えられた。

3) EPSI得点高低3群別比較

上記の相関結果を目安に、EPSI得点高低3群別クロス集計を行った(表5)。EPSI得点71-121を低群(152人)、EPSI得点122-141を中群(143人)、EPSI得点142-211を高群(148人)として、各項目の平均得点の比較を行い、多重比較で有意に差があった項目について以下に述べる。

Q12「大人として扱ってくれないと感じることがあるか」では、「先生・上司から」「親から」「年上の人から」「恋人または配偶者」「同年または年下」の全ての項目において、低群が、中群および高群に比べ、大人として扱ってくれないと感じる傾向が認められた(**)。

Q13「どんな時、社会の一員と感じるか」では、「家族でいる時」で高群が低群に比べ選択率が高かった。「社会の一員と感じる事がない」は低群の選択率が高群に比べ高かった(*)。

Q14. 世代継承観では、「2. 私は、親や上の世代から伝えられる知的財産や生活の知恵を大切に、次の世代に引き継がせたい」および「4. 子どもたちは、次の時代の担い手だから、社会全体がその養育・教育に幅広く責任を持って支援すべきである」で高群が低群(**)・中群(*)に比べ得点が高かった。「3. 私は、自分の子どもに限らず、次世代の子どもたちを理解し支援していきたい」は高群が中群に比べ高かった(**)。

Q15育児観については、15項目中10項目で有意な差が認められ、高群が他群に比べて肯定的な育児観を持っていた。詳細は次項で述べる。

Q16仕事、家事、自分のため、家族や身近な人のため、社会活動のそれぞれにどれくらいエネルギーを注いでいると思うかを10段階でたずねた結果、「自分のため」を除くすべての項目で、高群が他群に比べエネルギーを多く注いでいた(**)。エネルギーの合計点でも同様に、高群が他群に比べエネルギーを多く注いでいた(*)。

Q17生活バランスは、高群・中群・低群の順に満足度が高かった。

2-3. 育児観-Q15育児観項目とEPSI・SOCの関連

少子化の要因の一つに、子育てへの負担感があげられているが、その負担感をより重く感じている場合は、子どもを生むことや子育てに否定的・消極的となり、反対に負担感が軽い場合は、出産や育児を肯定的・積極的に捉えることができ、養育力が高められるのではないかと考えられる。昨年度の研究では、EPSIは肯定的な育児観や育児の自己効力感と正の相関があり、親の人格の成熟

度が養育力(育児力)の決定要因のひとつと考えられた。また、SOCの要素の中の、有意味感と肯定的育児観との間には相関が認められ、EPSIとSOC有意味感との相関が高いことを考え合わせると、子育てに満足感や喜びなどの有意味感を持つことができる背景には、人格の成熟度が関与していることが考えられた。そこで、本年度の研究においては、子ども観や育児観について、負担感や有意味感に関する設問を加え、EPSIやSOCとの関連をさらに詳細に検討することとした。

今回加えた設問は、「親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である」「子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」といった古典的家庭観や性別役割観に関する設問、「子育てをすることにより、自分の自由な時間がなくなる」といった子育ての負担感を問う設問、および「子育ては楽しい」や「子育ては自分を成長させることが出来る」といった有意味感に関する設問、および「人づきあいが得意である」等の社会性や連帯性を問う設問である。

1) 属性による育児観の違い

育児観項目について、対象の属性による違いを比較してみた。まず、学生・学生親・乳幼児親という、ライフステージの違いによる比較を行ってみた(表6)。順位和検定で有意差が認められた項目は、「子育てにはお金がかかるがやむをえない」「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」「子育てには息抜きやリフレッシュが必要である」「子育ては自分を成長させることが出来る」「子どもを見ておもしろいと感じる」「父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である」であった。子育ての経済的負担感、学生とその親に高く、その他の育児の負担感、学生と乳幼児の親に高い傾向であった。子育てにより自分が成長できる等の子育ての有意味感については、学生の親が高かった。一方、乳幼児の親においては、子どもは見ておもしろいと感じる割合が多く、仕事と家庭を両立させることの大切さにおいては、乳幼児の親において「そう思う」とした割合は低かった。男女による違いを検討してみた(表7)。有意差が認められた項目は、「親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である」「子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない」「子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにならなくてもかまわない」「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」「子育てには息抜きやリフレッシュが必要である」「子育ては自分を成長させることが出来る」「人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」であった。男性より女性において、育児による犠牲感や負担感を強く感じていると

いう傾向が認められた。

2) EPSIと育児観項目

EPSI得点により低・中・高の3群に分け、育児観項目との関係を示した(表5)。有意差が認められた項目は、「親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である」「子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない」「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」「子育ては楽しい」「子育ては自分を成長させることが出来る」「子どもを見ているとおもしろいと感じる」「私は、人づきあいが得意である」「人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」「父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である」であり、子育ての負担感や社会性、共感性は高群において高い傾向が認められた。すなわち、EPSI得点の高いものは、育児の負担感が少なく、子育てに有意味感を持ち、育児観が積極的・肯定的であることがわかり、さらには社会的連帯感も備えており、人格の成熟度と養育力には関連があるという、昨年度の結論をさらに裏付ける結果が得られた。

3) SOCと育児観項目

SOCの中の有意味感得点と育児観項目との関連を検討した(表8)。SOC・有意味感得点との間に、有意な相関が得られた項目は、「子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない」「子育てにはお金がかかるがやむをえない」「子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ」「子育ては楽しい」「子育ては自分を成長させることが出来る」「子どもを見ているとおもしろいと感じる」「私は、人づきあいが得意である」「人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい」であった。子育てに時間や費用がかかることの容認については正の相関が、子育ての負担感の訴えとは負の相関が、子育ての有意味感や社会性・連帯性とは正の相関が認められた。なお、SOC合計得点と育児観項目との関連においても同様の傾向が認められた(表5)ことをふまえると、多少の犠牲や負担を克服して、喜びや満足感をもって肯定的に子育てにのぞむための要素として、人格における首尾一貫感覚、その中でも特に有意味感の獲得も重要であることが示唆されていると考えられた。

2-4. 大人になるということ

大学生を対象に行った大人観の予備調査結果において、養育性を示す記述は少なかった。本調査対象は、大学生以外に、大学生の親、乳幼児の親を対象とすることを加味し、予備調査で得られた大人観を表す項目に、養育性を表す項目などを加えた。また、大人であると自覚

する時期、親はいつから大人として扱ってくれたかなどを調べた。

1) 大人観

Q9「一人前のおとなとはどういうことだと思うか」では、一人前の大人として大切と思う順に1位～3位まで順位を求めた。全体集計で1位として選ばれた項目は「責任ある行動がとれる」30.9%、「経済的に親の世話にならない」20.5%、「社会常識が身につく」9.0%の順に多かった。2位、3位も同じ項目が上位を占めた(表9)。養育性を表す項目は、3位の4番目に「家族ができる」9.5%がはいっている以外は、「年下のめんどうをみる」「周りの人を気遣い、世話をやく」など、1位選択から3位選択を合計しても1.2%、0.2%であった。養育性を示す項目は極めて選択率が低かった。対象群別にみると、学生では「親から精神的に独立する」、学生の親では「家族が出来る」がやや上位にあがっていた。

2) 大人としての自覚

Q10「自分は大人になった」と感じた時期を尋ねた設問では、大学生の64.8%と乳幼児の親の4.2%が「まだ大人になったと感じていない」と回答した。自分が大人であると感じている場合(306名)に「いつ大人になったと思うか」を尋ねた。「仕事についた時」が最も多く43.8%、次いで、「20歳になった時」12.1%、「高校を卒業した時」11.4%で、「はじめてセックスをした時」は2名(0.7%)、「結婚した時」は22名(7.2%)、「子どもが生まれた時」は27名(8.8%)であった(表10)。年齢でみると、大学を卒業し仕事に就く22歳が多かった。自分を大人と思っていない場合も、大人になれるのは「仕事につく時」が最も多く45.3%であった。自分を大人と思っていない乳幼児の親の記述回答では「ずっと子供のまま(男性)」「子供が成人した時(女性)」「子供と共に成長していく」(女性)「子供を育てながらやっと自分が一人前になっていくような気がしてきた」(女性)などがあつた。

3) 大人として扱い

Q11「両親がいつから大人として扱ってくれるようになったか」では、父からは、平均値で、学生は17.8歳の時から、学生の親は21.9歳の時から、乳幼児の親は22.5歳の時からで、母からは、学生17.6歳、学生の親22.0歳、乳幼児の親22.2歳の時から大人として扱われたと感じている。「未だに子ども扱いである」は全体で、父からが17.8%、母からが23.4%みられた。学生のみを集計では、父から35.2%が、母から42.2%が、未だに子ども扱いされていると感じていた。

Q12「周囲から大人として扱われていないと感じる時」では、EPSI高低3群比較において、前述した通り(2-23)および表5)、先生・上司、親、年上の人、恋人または配偶者、同年または年下、その他社会の中、すべての項目でEPSI低群が中群と高群に比べ、大人として扱われていないと感じる頻度が高かった。

以上大人になる事に関する調査結果では、予備調査と同様、大人観は経済的・社会的要素の割合が高く、養育性を示す割合は低かった。大人としての自覚がつく時期は、学校をでて仕事につく22歳頃が多く、経済的な自立の時期ということになる。また親もこの時期から、子どもを大人として扱う事が多い。EPSI低群は、現在大人として扱われていないと感じる事が多かった。

2-5. ワーク・ライフ・バランスについて

調査対象が、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていた割合は、14.7%であった。仕事と個人生活の双方の充実を目的に、ワーク・ライフ・バランスという言葉が使われ出したが、ワークという言葉は「収入を得る仕事」という意味で使うのであれば、今回の調査に含まれた学生や専業主婦にとっては適当でない。何を仕事と考えるかは回答者に任せたが、いわゆるワーク・ライフ・バランスと分けて、生活バランスと呼ぶ事とした。

1) 生活バランスの満足度とバランスの取り方

現在の生活のバランスの満足度を尋ねたところ、「満足している」14.2%、「まあ満足している」59.1%、「やや不満である」21.2%、「不満である」5.4%であった。学生の親と、乳幼児の親の満足度には差がなく、学生の満足度がやや低かった。

生活のバランスの取り方を尋ねたところ、「1週間の間でバランスがとれているのがよい」とする割合が高く39.3%であった。次いで「1日のうちで」が16.6%、「一か月位の間で」が10.2%であった。一方、生活のバランスが「偏っていてもよい」5.0%、「家族でバランスがとれていればよい」が12.9%あった(表11)。

2) 生活バランスの満足度と他項目の関連

生活バランスに「満足している」と「まあ満足している」を満足群(n=325)、「やや不満である」と「不満である」を不満群(n=118)として、クロス集計を行った。男性は満足群72%・不満群28%は、女性は、満足群74.1%・不満群25.9%と性差はなかった。学生は、満足群67.8%・不満群32.2%、保護者合計(n=190)では、満足群77.9%・不満群22.1%で学生の方に不満群が多かった(*)。主な項目の結果を表12に示す。

Q12「大人として扱われていないと感じることがあるか」では、不満群は満足群に比べて、「親から」大人として扱われていないと感じる事が多かった(*)。

Q13「社会の一員であると自覚する時」では、満足群が「家族といる時」(**)、「学校で勉強をしている時」(*)に自覚する事が多かった。

Q15「子育て観」では、7「子育ては、心理的・肉体的負担が大きい」で不満群の得点が高く(*)、10「子育ては楽しい」(**)、11「子育ては自分を成長させる事が出来る」(*)、13「人づきあいが得意である」(*)、14「人は、社会の中で助け合って生きていく事が望ましい」(*)

では満足群の得点が高かった。

Q16生活のバランスを尋ねた「何にどの程度エネルギーを注いでいるか」では、満足群の「家事」(*)と「社会活動」(*)で得点が高い。また、1-5の項目の合計得点でも、満足群が高い(*)。

EPSI得点は、満足群135.08・不満群117.82、SOC得点は満足群57.30・不満群49.36といずれも満足群が高かった(**)。

以上のように、生活バランスに満足している群は、親から大人として扱われ、家族と一緒にいる時に社会の一員と感じている。子育て観は肯定的であり、仕事以外に家庭や社会活動にエネルギーを注いでいる。生活バランスに満足している群は、不満群に比べ、仕事以外の生活が充実していると言える。言い換えれば、生活バランスの満足度は仕事以外の生活の充実によってもたらされていると言えよう。また、満足群は、EPSI得点・SOC得点が高く、人格の成熟度が高く、一貫性を保つ人生態度を持っていると言える。

IV. 考 察

少子化現象および子どもを取り巻くさまざまな問題を「個人および社会の養育力が低下した状態である」ととらえ、養育力と育児観、大人観、生活バランス感覚の関連について分析した。

養育力については、E.H.エリクソンによる“ジェネラティビティ”をその中核概念とし、人格の成熟度の指標としてEPSI(エリクソン心理社会的段階目録検査)を使用した。すでに、平成13年から18年までに行った調査において、人格の成熟と次世代育成に関する多くの事柄に正の関連を認めた⁹⁾⁻⁹⁾。今回新たに、育児観、大人観、生活バランス感覚を取り上げた理由は以下の通りである。

村田は、「生まれた子どもたちがその誕生を喜ばれ、人間らしい成長と生活を保証されることは基本的人権である。子育てをリスクであり負担であるが、不可欠だという子ども観のなんと貧しい事か。子どもを『障害物視』するまなざしで子育て支援政策は加速していく」と述べている¹²⁾。一般に、この村田の指摘する「貧しさ」を「価値観の違い」ということで片付けていないだろうか。豊かな子ども観を育むためにどうしたらよいか。これを養育性と言い換え、養育力(次世代育成力)を育成する方策を模索する目的で育児観に関して調査を行った。

村田はまた、地域子育てセンターの育児支援における母親観も問題にし、その設置目的の一つである母親の学習については「子どもの問題と離れたところに設定されたり、育児情報レベルにおかれている。こうした母親を低く見るまなざしは特殊ではない。」とし、例として全国に配布された育児支援を目的とした小冊子をあげて

「絵本のような体裁とは、母親を、幼児扱い、幼児並み、幼児程度ととらえていることだろうか」としている。筆者もある「父子手帳」を手にした時に同じ印象をもったのである。また、昨年度我々の調査における保護者の記述回答に「子どもを産むまでは一社会人として自立していた人達が、新米母というだけで子ども扱いをされている」との指摘があった³⁾。晩婚化は進み、初産の年齢は30歳に近づいている現在、このように親を子ども扱いすることでよいかは疑問であった。以上を背景に今回「大人になるとはどういうことか」「大人として扱われているか」について調べた。

ワーク・ライフ・バランス施策については、従来の「ファミリー・フレンドリー」施策が家庭支援に重点が置かれていたのに対し、家庭生活に限定されず、性別や年齢に関係なく、労働者が仕事とそれ以外のバランスがとれるようにするための施策とされている¹³⁾ ¹⁴⁾。労働者に対する施策であるので、働いていない人は、再雇用等の支援以外では対象とはなっていない。ワークという言葉は「賃金収入を得る仕事」という意味で使うのであれば、今回の調査に含まれた学生や専業主婦にとってこの語は適当でないので、生活バランスと呼ぶ事として調査を行った。生活バランスのなかに、次世代育成がどう位置づけられるのか、生活バランスと養育力の関連について調べた。

1. 育児観について

対象群（学生・学生の親・乳幼児の親）別の分析から、乳幼児の親や女性の場合に、育児の負担感が強く、仕事と子育ての両立は難しいという結果であり、実際の育児の担い手としての意識や、子育ての現状が反映されているのではないかと考えられた。また、学生の場合、実際に育児は経験していないものの、子育ての負担感については、間接的に実感しているようであった。一方、学生の親は、子育てに関しては一段落した世代であり、子育ての有意味感について経験的に実感できるという特徴があるのではないかと考えられた。

子育ての現役世代である乳幼児の親において、育児負担感が高いということに対しては、子育て支援策のより一層の充実が求められる。さらに、女性や親子備軍である学生において育児負担感が高いという結果をふまえると、社会全体において性役割分業観の払拭に向けての対策や、幼少期や思春期から子育て意識を肯定化できるような対策が課題と考えられる。

EPSIとSOCについては、人格の成熟度・首尾一貫感覚と養育力には関連があるという、昨年度の結論をさらに裏付ける結果が得られた。多少の犠牲や負担を克服して、喜びや満足感をもって肯定的に子育てにのぞむための要素として、人格における首尾一貫感覚、その中でも特に有意味感の獲得も重要であることが示唆されていると考えられた。

2. 大人観について

予備調査を経て、大人観について調べた結果、対象の持つ大人というイメージの中に、養育性が希薄である事が分かった。一人前の大人とはどういうことかと思うかでは、「責任ある行動」「社会常識が身に付く」「親からの経済的独立」が、1位から3位を占め、養育性を表す「年下の世話をする」「家族を養う」などの選択肢は下位に留まった。大人としての自覚は、「仕事についた時」との回答が多く、大人になるという事は、経済的・社会的に自立するということが第一義に考えられていた。大学生の親には僅かながら養育性に関する項目の選択が多く見られたことから、加齢または子育て経験によって、養育性のイメージが備わっていくことが考えられる。早い時期から大人というイメージの中に養育性が備わる事が、その後の養育性の発達に繋がる事が考えられるので、今後この点を追究していきたい。

大人として扱われているかどうかは、EPSIと相関があり、EPSI得点の低い群の方が「大人として扱われていない」と感じる事が多かった。人格の未熟性を周りが認めていると考えられるが、ある程度の年齢に達した大人を子ども扱いすることに問題はなからうか。幼児の親のなかに自分は「まだ大人になっていない。子どもと共に成長していく」という回答が複数あった。正に子どもが子どもを育てる状態と言える。子育てで親が成長するという事はあるが、親としての成長は、大人として基盤があつてのことであろう。人格の未熟性について、いかに対処するか、育児支援の中で、親を大人扱いするのか、未熟な親として子ども扱いするのか検討課題として提起したい。

3. 生活バランスについて

生活バランス満足度はEPSIおよびSOCに相関があり、満足しているか否かで検討した結果、満足群のEPSIおよびSOC得点が高かった。人格の成熟度が高く、首尾一貫性のある人は、仕事と個人生活のバランスの取り方にも優れていると考えられる。

生活バランス満足群は、肯定的な育児観を持っており、家庭や社会活動に力を注いでいるなど、仕事以外の生活が充実していた。このことから、個人生活の充実を支援するワーク・ライフ・バランス施策は、育児支援策として有効であることが示唆された。

ワーク・ライフ・バランスという考えかたについては、「これまで一日という単位で労働・休養・余暇のバランスを考えていたところを、年間もしくは生涯を見通して現在を位置づけるという生活設計にちかづいた¹⁵⁾とされている。今回の調査で、バランスの取りかたを設問した結果、「1週間でバランスがとれるのがよい」という回答が多かった。これに対しては、現在取り組まれている各種の施策から、労働時間の柔軟性を促進することから対応できるであろう。一方、「バランスが偏っていてもよい」「家族でバランスがとれていればよい」という回答も見られた。後者は専業主婦に多く、現状を肯定し

たものと考えられる。「バランスが偏っていてもよい」という考えにどう対処するのか、生涯を通したバランスを考え、その中に次世代育成をいかに位置づけられるかが課題といえよう。

V. 結論

今回の調査対象のもつ大人観は、養育性（ジェネラティビティ）が希薄であることがわかった。大方のもつ大人観は、経済的社会的自立や親からの精神的自立であった。自立性ととともに、養育性が育まれるような次世代の育成がのぞまれる。

大人としての自覚がない親、大人として扱われていない大人が存在が確認された。育児支援活動において、親の未熟性にどう対処するか、大人を大人として扱い、親としての育ちを支援する姿勢が大切である。

生活バランスに満足している群は育児に積極的であり、育児支援としてのワーク・ライフ・バランス施策の有効性が示唆された。

生活バランスの取り方は、「1週間で」の希望が最も多く、これに対応した労働環境の整備が望まれる。労働時間の柔軟性が必須である。一方バランスがとれなくてもよいという考え方があり、どう対処していくかが一つの課題である。

謝 辞

調査にご協力頂いた、大学、幼稚園、保育所の回答者並びに職員の皆様に深謝申し上げます。

文 献：

- 1) E. H. エリクソン. ライフサイクル, その完結. みすず書房, 88-89, 1989
- 2) 中西信男・佐方哲彦. EPSI-エリクソン心理社会的段階目録検査-. 上里一郎監修. 心理アセスメントハンドブック第2版, 西村書店, 365-376, 2001
- 3) 宮原 忍・他. 少子社会における養育力と価値観に関する研究 (III) 乳幼児をもつ保護者の養育力と育児観に関する調査. 日本子ども家庭総合研究所紀要、第42集：113—125、2006
- 4) 宮原 忍・他. 少子社会における養育力と価値観に関する研究 (II) 親子間の継承に関するアンケート結果. 日本子ども家庭総合研究所紀要. ; 第41集：103—116、2005
- 5) 宮原 忍・他. 少子社会における養育力と価値観に関する研究 (I) EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査) とライフスキル. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 第40集：129-142. 2004
- 6) 宮原 忍, 他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第三報) 「次世代育成に関するアンケート調査」分析と統括, 日本子ども家庭総合研究所紀要, 第39集；151-167. 2003
- 7) 宮原 忍・他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第一報) 文献研究. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 第37集：97-115、2001
- 8) 宮原 忍・他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第二報) 次世代育成に関するアンケート調査結果. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 第38集：151-163. 2002
- 9) 小此木啓吾, 他. <次世代を育む心の危機>ジェネラティビティ・クライシスをめぐって. 慶応義塾出版会. 2004.
- 10) 平成19年度厚生労働省予算案の主要事項、<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/d1/s0314-18d.pdf>
- 11) アーロン・アントノフスキー, 山崎喜比古・吉井清子監訳, 健康の謎を解く；ストレス対処と健康保持のメカニズム, 有信堂、2001
- 12) 村田晶子、子育て支援政策の問題性-育児期の女性にとって意味-. 早稲田大学大学院研究科紀要第50輯. 119-132、2005
- 13) 大沢真知子. ワークライフバランス社会へ-個人が主役の働き方. 岩波書店、2006
- 14) 少子社会対策に関する先進的取組事例研究報告書—概要版—、平成18年3月、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）.
- 15) 佐藤博樹・御船美智子. ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けて、季刊家計経済研究所Summer. No. 71:8-16、2006.

表1. 予備調査:1人前の基準

大項目	小項目	内容	実数				%			
			男性	女性	不明	計	男性	女性	不明	計
1		経済的要因	34	49	20	103	64.2	58.3	50.0	58.2
	11	自立	13	26	8	47	24.5	31.0	20.0	26.6
	12	自分で稼ぐ	8	14	6	28	15.1	16.7	15.0	15.8
	13	金銭的管理ができる	0	2	1	3	0.0	2.4	2.5	1.7
	14	仕事に就く	3	1	2	6	5.7	1.2	5.0	3.4
	15	自分以外の人を養う	4	3	3	10	7.5	3.6	7.5	5.6
	16	経済的責任がとれる	2	1	0	3	3.8	1.2	0.0	1.7
	17	持ち家	2	0	0	2	3.8	0.0	0.0	1.1
	18	その他	2	2	0	4	3.8	2.4	0.0	2.3
2		社会的-対人関係	15	23	6	44	28.3	27.4	15.0	24.9
	21	社会(対人)との調和	3	7	2	12	5.7	8.3	5.0	6.8
	22	家族ができる	3	1	1	5	5.7	1.2	2.5	2.8
	23	自分の意見を主張	1	1	1	3	1.9	1.2	2.5	1.7
	24	人に迷惑をかけない	2	10	1	13	3.8	11.9	2.5	7.3
	25	その他	6	4	1	11	11.3	4.8	2.5	6.2
3		判断力・責任	16	28	17	61	30.2	33.3	42.5	34.5
	31	社会的自立	2	8	3	13	3.8	9.5	7.5	7.3
	32	社会的貢献ができる	1	0	0	1	1.9	0.0	0.0	0.6
	33	判断力・決断力	2	6	5	13	3.8	7.1	12.5	7.3
	34	社会的常識が身につく	2	3	2	7	3.8	3.6	5.0	4.0
	35	行動に責任がとれる	6	9	7	22	11.3	10.7	17.5	12.4
	36	法の遵守	2	1	0	3	3.8	1.2	0.0	1.7
	37	その他	1	1	0	2	1.9	1.2	0.0	1.1
4		精神的自立	18	54	27	99	34.0	64.3	67.5	55.9
	41	周りの人のことが考えられる	2	8	0	10	3.8	9.5	0.0	5.6
	42	自分の判断に対する責任をやり遂げる	2	7	3	12	3.8	8.3	7.5	6.8
	43	自分の信念を持つ	1	8	7	16	1.9	9.5	17.5	9.0
	44	受容・寛容・我慢強さ	1	3	2	6	1.9	3.6	5.0	3.4
	45	自己管理	3	5	2	10	5.7	6.0	5.0	5.6
	46	道徳判断の確立	2	0	1	3	3.8	0.0	2.5	1.7
	47	親からの精神的自立	0	6	2	8	0.0	7.1	5.0	4.5
	48	積極的な行動がとれる	0	0	3	3	0.0	0.0	7.5	1.7
	49	責任感を感じられる	3	4	4	11	5.7	4.8	10.0	6.2
	50	その他	4	13	3	20	7.5	15.5	7.5	11.3
5		制度				0	0.0	0.0	0.0	0.0
	51	20歳になったら	2	0	1	3	3.8	0.0	2.5	1.7
		合計	85	154	71	310	160.4	183.3	177.5	175.1
		全体(人数)	53	84	40	177	100.0	100.0	100.0	100.0

表2. 予備調査:子どもの人数とその理由

		1人	2人	3人以上	わからない	ほしくない	計
子育てに対する不安	11 大変そう		1	1			2
	12 育てられるか心配	1			3	2	6
	13 その他	1		1	1		3
情緒的理由	21 子どもが好き		1	3			4
	22 子どもといると楽しい			4			4
	23 一人ではかわいそう		24	5	1		30
	24 二人なら助け合える		5				5
	25 自分が一人っ子で寂しかった		2	1			3
	26 一人っ子では味わえないから		4	4			8
	27 きょうだいがいた方が楽しい		10	10			20
	28 自分の体験から		15	13			28
	29 その他	1	4		2		7
経済的理由	31 2人以上は経済的に厳しい		9	1	1		11
	32 経済的にベスト	2	7				9
	33 ゆとりがあるから	1		1			2
	39 その他の経済的理由			1	1		2
バランス感覚	41 多すぎず少なすぎず		7	2			9
	42 男女ひとりずつがよい		11				11
	43 ちょうどよい		14	7			21
	49 その他		1	4	2		7
社会性	51 一人だと出生率に響く		1	2		1	4
人間的成長	61 親も成長できる			1			1
	69 その他人間的成長			1			1
欲しくない理由	91 育てたくない				1	5	6
	92 生みたくない					3	3
	93 経済的理由					5	5
件数合計		6	116	62	12	16	212
人数		5	86	42	21	23	177

表3-1.性別EPSI平均値

	合計(n=443)		男性(n=150)		女性		順位 和検 定
	平均値	標準 偏差	平均値	標準 偏差	平均 値	標準 偏差	
1信頼性	14.5	3.8	14.5	3.9	14.5	3.7	
2自律性	16.7	4.4	17.1	4.3	16.5	4.5	
3自主性	15.9	4.0	16.4	4.2	15.6	3.8	*
4勤勉性	16.4	4.4	17.2	4.7	16.0	4.1	***
5同一性	16.3	3.3	17.1	3.1	16.0	3.3	*
6親密性	18.0	4.0	17.8	3.8	18.1	4.0	
7生殖性	14.2	4.1	15.7	4.0	13.4	3.9	***
8統合性	17.0	4.1	17.0	4.0	17.0	4.1	
EPSI合計	129.0	23.0	132.5	23.4	127.1	22.6	**
SOC合計	55.2	11.3	56.0	11.3	54.8	11.3	

* <0.1, ** <0.05, *** <0.01

表3-2.対象群別(学生・学生の親・幼児の親)EPSI平均値

	合計(n=443)		学生(n=199)		学生親(55)		乳幼児親 (n=189)		順位和 検定	多重比較		
	平均値	標準 偏差	平均値	標準 偏差	平均 値	標準 偏差	平均値	標準 偏差		学生・ 学生 親	学生・ 乳幼児 親	学生親・ 乳幼児 親
1信頼性	14.5	3.8	13.6	3.7	15.9	4.2	15.1	3.4	***	***	***	
2自律性	16.7	4.4	14.6	4.3	19.0	3.9	18.3	3.6	***	***	***	
3自主性	15.9	4.0	14.3	4.1	17.6	3.4	17.0	3.4	***	***	***	
4勤勉性	16.4	4.4	15.0	4.1	18.7	3.7	17.2	4.3	***	***	***	*
5同一性	16.3	3.3	16.7	4.7	18.8	4.0	18.8	3.6	***	***	***	
6親密性	18.0	4.0	18.6	4.0	17.5	3.5	17.4	4.0	***		**	
7生殖性	14.2	4.1	13.6	4.3	16.2	3.7	14.3	3.8	***	***		***
8統合性	17.0	4.1	16.0	4.3	17.7	4.3	17.7	3.5	***	**	***	
EPSI合計	129.0	23.0	122.3	23.7	141.4	24.9	135.9	21.5	***	***	***	
SOC合計	55.2	11.3	49.8	9.8	62.3	10.3	58.8	10.5	***	***	***	*

表4. EPSI, SOCと他項目の相関係数

*p<0.05, **p<0.01

		EPSI合計	SOC合計
Q1	性別	-.101(*)	-0.051
Q2	年齢	.299(**)	.417(**)
Q10	まだ大人になっていない	.296(**)	.355(**)
Q12. 大人として扱ってくれないと感じることがあるか	1. 先生・上司など目上の人から	-.342(**)	-.375(**)
	2. 親から	-.399(**)	-.406(**)
	3. 年上の人から	-.391(**)	-.397(**)
	4. 恋人または配偶者から	-.338(**)	-.348(**)
	5. 同年または年下から	-.348(**)	-.327(**)
	6. その他社会の中で	-.400(**)	-.400(**)
	7. 上記以外の人から	-.511(**)	-.591(**)
Q13. 社会の一員と自覚するとき	1. 家族といるとき	.149(**)	.184(**)
	2. 友達や仲間といるとき	-0.038	-0.067
	3. 仕事・アルバイトなど、働いているとき	0.077	0.035
	4. 学校で勉強しているとき	-.103(*)	-.114(*)
	5. ボランティアなど、社会的な活動をしているとき	0.054	-0.064
	6. 電車の中で席を譲るなど、他人のために何かしたとき	0.058	-0.013
	7. 税金を払ったとき	-0.021	0.027
	8. 選挙のとき	0.014	0.080
	9. 新聞・テレビ・インターネット等メディアに触れているとき	-0.067	-0.018
	その他	0.075	0.004
	11. 社会の一員と感じることがない	-.154(**)	-.140(**)
Q14. 世代継承観	1. 私は親や上の世代から伝えられる財産(物的)を大切にしたい	0.005	0.022
	2. 私は、親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にし、次の世代に引き継がせたい	.191(**)	.198(**)
	3. 私は、自分の子どもに限らず、次世代の子どもたちを理解し支援していきたい	.240(**)	.176(**)
	4. 子どもたちは、次の時代の担い手だから、社会全体がその養育・教育に幅広く責任を持って支援すべきである	.197(**)	.197(**)
	5. 子どもをほしい、と思う人が安心して産み育ててゆける環境づくりは、現在の最優先課題である	0.077	0.025
Q15. 育児観	1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	-0.078	0.025
	2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	0.082	-0.014
	3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	0.000	0.016
	4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	.159(**)	.144(**)
	5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	0.036	.120(*)
	6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	.096(*)	0.037
	7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	-.203(**)	-.190(**)
	8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	-.149(**)	-.204(**)
	9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	-0.088	-.124(**)
	10. 子育ては楽しい	.357(**)	.296(**)
	11. 子育ては自分を成長させることが出来る	.269(**)	.150(**)
	12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	.247(**)	.211(**)
	13. 私は、人づきあいが得意である	.434(**)	.307(**)
	14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	.198(**)	.153(**)
	15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	.127(**)	0.052
Q16. 生活の中で、エネルギーを注ぐ程度(10段階)	1. 仕事	.193(**)	0.012
	2. 家事	.261(**)	.247(**)
	3. 自分のため	0.070	-.127(**)
	4. 家族や身近な人のため	.191(**)	.115(*)
	5. ボランティアなど社会的活動	.240(**)	0.079
	Q16-1~5合計	.371(**)	.115(*)
Q17	生活のバランス満足度(逆転項目)	-.356(**)	-.338(**)
Q20	EPSI合計	1.000	.704(**)
Q21	SOC合計	.704(**)	1.000

表5. EPSI高低3群別集計 (Q12~17)

	合計 (n=443)		低群 (n=152)		中群 (n=143)		高群 (n=148)		順位和 検定	多重比較		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		低-中	低-高	中-高
Q12. 周囲の人から大人扱われていないと感じることがあるか												
1. 先生・上司など目上の人から	1.74	0.93	2.11	1.04	1.62	0.85	1.47	0.75	0.000	**	**	
2. 親から	2.17	1.11	2.69	1.13	1.99	1.00	1.78	0.98	0.000	**	**	
3. 年上の人から	1.86	1.01	2.34	1.06	1.69	0.90	1.52	0.87	0.000	**	**	
4. 恋人または配偶者から	1.61	0.91	2.05	1.06	1.42	0.70	1.42	0.80	0.000	**	**	
5. 同年または年下から	1.51	0.82	1.89	0.95	1.37	0.70	1.27	0.62	0.000	**	**	
6. その他社会の中で	1.74	0.93	2.21	1.02	1.60	0.88	1.38	0.65	0.000	**	**	
Q13. 社会の一員と自覚するとき												
1. 家族といるとき	0.18	0.38	0.11	0.31	0.20	0.40	0.23	0.42	0.012		*	
2. 友達や仲間といるとき	0.14	0.35	0.15	0.36	0.17	0.38	0.11	0.31	0.320			
3. 仕事・アルバイトなど、働いているとき	0.72	0.45	0.70	0.46	0.71	0.45	0.76	0.43	0.496			
4. 学校で勉強しているとき	0.06	0.23	0.09	0.28	0.06	0.23	0.03	0.16	0.090			
5. ボランティアなど、社会的な活動をしているとき	0.28	0.45	0.26	0.44	0.26	0.44	0.33	0.47	0.304			
6. 電車の中で席を譲るなど、他人のために何かしたとき	0.19	0.39	0.15	0.36	0.20	0.40	0.21	0.41	0.370			
7. 税金を払ったとき	0.28	0.45	0.30	0.46	0.28	0.45	0.26	0.44	0.748			
8. 選挙のとき	0.31	0.46	0.26	0.44	0.39	0.49	0.29	0.46	0.045			
9. 新聞・テレビ・インターネット等メディアに触れているとき	0.07	0.25	0.08	0.27	0.09	0.29	0.03	0.16	0.063			
11. 社会の一員と感じることがない	0.03	0.18	0.07	0.25	0.02	0.14	0.01	0.12	0.026		*	
Q14. 世代継承観												
1. 私は親や上の世代から伝えられる財産（物的）を大切にしたい	3.27	0.83	3.29	0.79	3.21	0.84	3.30	0.86	0.531			
2. 私は、親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にし、次の世代に引き継がせたい	3.54	0.64	3.40	0.72	3.52	0.60	3.71	0.52	0.000		**	*
3. 私は、自分の子どもに限らず、次世代の子どもたちを理解し支援していきたい	3.40	0.68	3.22	0.77	3.39	0.63	3.59	0.57	0.000		**	
4. 子どもたちは、次の時代の担い手だから、社会全体がその養育・教育に幅広く責任を持って支援すべきである	3.62	0.62	3.48	0.72	3.59	0.59	3.78	0.49	0.000		**	*
5. 子どもをほし、と思う人が安心して産み育ててゆける環境づくりは、現在の最優先課題である	3.50	0.68	3.46	0.74	3.48	0.60	3.57	0.68	0.158			
Q15. 育児観												
1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	2.57	0.88	2.54	0.86	2.76	0.74	2.43	0.99	0.011			**
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	3.30	0.73	3.26	0.74	3.27	0.67	3.38	0.76	0.139			
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	2.83	0.96	2.87	0.89	2.75	0.93	2.86	1.05	0.393			
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	3.04	0.80	2.87	0.87	3.08	0.67	3.18	0.83	0.002			**
5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにならなくてもかまわない	2.56	0.88	2.50	0.88	2.65	0.85	2.55	0.89	0.367			
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	3.41	0.71	3.34	0.76	3.41	0.68	3.48	0.68	0.324			
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	3.26	0.82	3.44	0.74	3.31	0.75	3.03	0.91	0.000		**	*
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	3.47	0.81	3.57	0.76	3.52	0.78	3.33	0.88	0.015		*	
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	3.70	0.62	3.79	0.49	3.66	0.63	3.64	0.71	0.083			
10. 子育ては楽しい	3.49	0.67	3.20	0.81	3.55	0.53	3.74	0.51	0.000	**	**	*
11. 子育ては自分を成長させることができる	3.69	0.61	3.48	0.76	3.76	0.52	3.85	0.41	0.000	**	**	
12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	3.75	0.55	3.57	0.72	3.83	0.43	3.87	0.39	0.000	**	**	
13. 私は、人づきあいが得意である	2.61	0.78	2.29	0.75	2.54	0.74	3.02	0.68	0.000	*	**	**
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.59	0.56	3.50	0.64	3.57	0.51	3.72	0.50	0.003		**	
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	3.40	0.74	3.32	0.76	3.41	0.66	3.50	0.78	0.021			
Q16. エネルギーを注ぐ程度（10段階）												
1. 仕事	5.26	2.66	5.06	2.62	4.81	2.61	5.93	2.63	0.002		*	*
2. 家事	4.76	2.42	3.89	2.44	5.03	2.12	5.42	2.41	0.000	**	**	
3. 自分のため	5.83	2.25	5.91	2.29	5.56	2.14	6.01	2.30	0.185			
4. 家族や身近な人のため	6.08	1.98	5.79	2.11	5.95	1.83	6.52	1.93	0.011		**	*
5. ボランティアなど社会的活動	3.07	2.36	2.57	2.23	2.93	2.11	3.73	2.57	0.000		*	*
Q16-1~5合計	24.86	6.29	23.05	6.08	24.09	5.30	27.49	6.54	0.000		**	**
Q17. 生活のバランス満足度（逆転項目）												
	2.18	0.74	2.49	0.75	2.16	0.67	1.88	0.65	0.000	**	**	**

*p<0.05, **p<0.01

表6. 育児観項目×ライフステージ

	大学生		大学生親		乳幼児親		合計		順位和 検定	有意差
	平均値	標準偏 差	平均値	標準偏 差	平均値	標準偏 差	平均値	標準偏 差		
1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	2.54	0.87	2.47	0.74	2.64	0.92	2.57	0.88	0.245	
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	3.33	0.75	3.22	0.74	3.30	0.70	3.30	0.73	0.521	
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	2.89	0.91	2.78	1.03	2.77	0.99	2.83	0.96	0.524	
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	3.04	0.78	3.18	0.82	3.00	0.82	3.04	0.80	0.251	
5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	2.52	0.88	2.74	0.91	2.56	0.87	2.56	0.88	0.335	
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	3.54	0.64	3.42	0.69	3.27	0.76	3.41	0.71	0.001	**
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	3.27	0.77	2.91	0.92	3.35	0.82	3.26	0.82	0.002	**
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	3.60	0.70	3.16	0.90	3.43	0.88	3.47	0.81	0.001	**
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	3.72	0.59	3.53	0.72	3.73	0.61	3.70	0.62	0.043	*
10. 子育ては楽しい	3.45	0.67	3.58	0.53	3.51	0.70	3.49	0.67	0.416	
11. 子育ては自分を成長させることができる	3.62	0.66	3.80	0.45	3.74	0.58	3.69	0.61	0.035	*
12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	3.67	0.66	3.69	0.50	3.86	0.41	3.75	0.55	0.002	**
13. 私は、人づきあいが得意である	2.63	0.82	2.73	0.78	2.56	0.75	2.61	0.78	0.454	
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.60	0.59	3.67	0.55	3.56	0.53	3.59	0.56	0.204	
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	3.48	0.70	3.49	0.79	3.30	0.76	3.40	0.74	0.018	*

表7. 育児観項目×性別

	男性		女性		合計		順位和 検定	有意差
	平均値	標準偏 差	平均値	標準偏 差	平均値	標準偏 差		
1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	2.68	0.91	2.52	0.86	2.57	0.88	0.034	*
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	3.33	0.75	3.29	0.72	3.30	0.73	0.390	
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	2.81	0.95	2.84	0.97	2.83	0.96	0.673	
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	3.15	0.78	2.99	0.81	3.04	0.80	0.031	*
5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	2.19	0.84	2.75	0.84	2.56	0.88	0.000	***
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	3.41	0.74	3.41	0.69	3.41	0.71	0.722	
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	3.05	0.87	3.37	0.77	3.26	0.82	0.000	***
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	3.17	0.97	3.62	0.67	3.47	0.81	0.000	***
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	3.47	0.80	3.82	0.46	3.70	0.62	0.000	***
10. 子育ては楽しい	3.46	0.71	3.51	0.65	3.49	0.67	0.604	
11. 子育ては自分を成長させることができる	3.57	0.70	3.76	0.54	3.69	0.61	0.002	**
12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	3.71	0.59	3.77	0.53	3.75	0.55	0.252	
13. 私は、人づきあいが得意である	2.63	0.77	2.60	0.79	2.61	0.78	0.720	
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.51	0.61	3.63	0.53	3.59	0.56	0.047	*
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	3.47	0.71	3.37	0.75	3.40	0.74	0.201	

表8. SOC・有意味感合計点と育児観項目との相関

	相関係数	有意差
1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	-0.025	
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	0.093	
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	0.034	
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	0.149	**
5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	0.079	
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	0.132	**
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	-0.119	*
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	-0.097	*
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	-0.003	
10. 子育ては楽しい	0.355	***
11. 子育ては自分を成長させることができる	0.216	***
12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	0.294	***
13. 私は、人づきあいが得意である	0.284	***
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	0.280	***
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	0.069	

*P<0.1,**P<0.05,***P<0.01

表9. 「1人前の大人になる」とはどういうことだと思うか（3つ選択し、順位をつける）

No.	カテゴリー名	1位		2位		3位		合計	
		n	%	n	%	n	%	n	%
13	責任ある行動がとれる	137	30.9	75	16.9	58	13.1	270	20.3
9	経済的に親の世話にならない	91	20.5	55	12.4	45	10.2	191	14.4
12	社会的常識が身につく	40	9.0	53	12.0	53	12.0	146	11.0
5	社会的に貢献する	25	5.6	24	5.4	27	6.1	76	5.7
15	親から精神的に自立する	18	4.1	38	8.6	27	6.1	83	6.2
6	家族ができる（結婚・子ども）	17	3.8	30	6.8	42	9.5	89	6.7
14	受容・寛容・我慢強さを身につける	16	3.6	28	6.3	27	6.1	71	5.3
10	自分以外の人を経済的に養う	14	3.2	14	3.2	19	4.3	47	3.5
1	人と調和してやっていける	12	2.7	23	5.2	23	5.2	58	4.4
11	自分を客観的に見られる	11	2.5	7	1.6	16	3.6	34	2.6
7	判断力・決断力がつく	10	2.3	32	7.2	28	6.3	70	5.3
3	自分の意見を主張できる	5	1.1	7	1.6	12	2.7	24	1.8
2	自分の住まいをかまえる	2	0.5	7	1.6	10	2.3	19	1.4
4	自分より年下の人の面倒をみる	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.1
8	周りの人を気遣い、世話をやく	0	0.0	5	1.1	11	2.5	16	1.2
16	その他	1	0.2	0	0.0	1	0.2	2	0.2
	不明	44	9.9	44	9.9	44	9.9	132	9.9
	全体	443	100.0	443	100.0	443	100.0	1329	100.0

表10-1. 「自分は大人になった」と感じた

No.	カテゴリー名	全体		学生		学生親		乳幼児親	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	まだ大人になったと感じていない	137	30.9	129	64.8	0	0.0	8	4.2
2	すでに大人になったと感じている	306	69.1	70	35.2	55	100.0	181	95.8
	全体	443	100.0	199	100.0	55	100.0	189	100.0

表10-2. 大人となったと感じた時期

No.	カテゴリー名	全体		学生		学生親		乳幼児親	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	中学生になる前	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	中学生になった時	1	0.3	1	1.4	0	0.0	0	0.0
3	中学校を卒業した時	2	0.7	1	1.4	1	1.8	0	0.0
4	18歳になった時	11	3.6	9	12.9	0	0.0	2	1.1
5	高校を卒業した時	35	11.4	23	32.9	4	7.3	8	4.4
6	体が大人になったと感じた時	1	0.3	1	1.4	0	0.0	0	0.0
7	20歳になった時	37	12.1	20	28.6	5	9.1	12	6.6
8	大学・大学院を卒業した時	13	4.2	0	0.0	8	14.5	5	2.8
9	仕事についた時	134	43.8	4	5.7	26	47.3	104	57.5
10	恋人が出来た時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11	初めてセックスをした時	2	0.7	2	2.9	0	0.0	0	0.0
12	結婚した時	22	7.2	0	0.0	4	7.3	18	9.9
13	子どもが生まれた時	27	8.8	0	0.0	5	9.1	22	12.2
14	その他	19	6.2	9	12.9	2	3.6	8	4.4
	不明	2	0.7	0	0.0	0	0.0	2	1.1
	非該当	137		129	184.3	0	0.0	8	4.4
	全体	306	100.0	70	100.0	55	100.0	181	100.0

表11. 生活のバランスのとりにかたについて

No.	カテゴリー名	全体		学生		学生親		乳幼児親	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	1日のうちで、バランスがとれているのがよい	73	16.5	42	21.1	6	10.9	25	13.2
2	1週間の中で、バランスがとれているのがよい	174	39.3	86	43.2	18	32.7	70	37.0
3	1ヶ月くらいの中で、バランスがとれているのがよい	45	10.2	20	10.1	4	7.3	21	11.1
4	1年間で、バランスがとれているのがよい	26	5.9	8	4.0	8	14.5	10	5.3
5	一生涯でバランスがとれているのがよい	40	9.0	16	8.0	7	12.7	17	9.0
6	どこかに偏っていてもかまわないと思う	22	5.0	16	8.0	2	3.6	4	2.1
7	家族全体で、バランスがとれていればよい	57	12.9	10	5.0	8	14.5	39	20.6
8	その他	5	1.1	1	0.5	2	3.6	2	1.1
	不明	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.5
	全体	443	100.0	199	100.0	55	100.0	189	100.0

表12. Q17生活バランス満足度2群間クロス集計

	1満足 (n=325)		2不満(n=118)		検定
	n	%	n	%	
男性(150)	108	72.0	42	28.0	
女性(293)	217	74.1	76	25.9	
学生(199)	135	67.8	64	32.2	*
学生の親(55)+乳幼児の親(189)	190	77.9	54	22.3	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	検定
Q12. 周囲の人から大人扱いされていないと感じることがあるか					
1. 先生・上司など目上の人から	1.71	0.91	1.83	0.97	
2. 親から	2.09	1.10	2.38	1.13	*
3. 年上の人から	1.81	0.98	1.98	1.08	
4. 恋人または配偶者から	1.57	0.90	1.74	0.93	
5. 同年または年下から	1.49	0.82	1.57	0.80	
6. その他社会の中で	1.68	0.88	1.89	1.05	
7. 上記以外の人から	1.19	0.57	1.67	1.08	*
Q13社会の一員として自覚する時					
1. 家族といるとき	0.22	0.41	0.08	0.27	**
2. 友達や仲間といるとき	0.15	0.36	0.13	0.33	
3. 仕事・アルバイトなど、働いているとき	0.72	0.45	0.74	0.44	
4. 学校で勉強しているとき	0.04	0.20	0.09	0.29	*
5. ボランティアなど、社会的な活動をしているとき	0.29	0.45	0.27	0.45	
6. 電車の中で席を譲るなど、他人のために何かしたとき	0.18	0.38	0.21	0.41	
7. 税金を払ったとき	0.28	0.45	0.26	0.44	
8. 選挙のとき	0.34	0.47	0.25	0.43	
9. 新聞・テレビ・インターネット等メディアに触れているとき	0.06	0.23	0.08	0.28	
11. 社会の一員と感じることがない。	0.02	0.16	0.06	0.24	
Q14世代継承観					
1. 私は親や上の世代から伝えられる財産(物的)を大切にしたい	3.27	0.83	3.28	0.83	
2. 私は、親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にしたい。次の世代に引き継がせたい	3.54	0.65	3.54	0.61	
3. 私は、自分の子どもに限らず、次世代の子どもたちを理解し支援していきたい	3.42	0.66	3.33	0.74	
4. 子どもたちは、次の時代の担い手だから、社会全体がその養育・教育に幅広く責任を持って支援すべきである	3.64	0.59	3.54	0.69	
5. 子どもをほしい、と思う人が安心して産み育ててゆける環境づくりは、現在の最優先課題である	3.50	0.70	3.49	0.61	
Q15育児観					
1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	2.57	0.90	2.58	0.83	
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	3.28	0.74	3.37	0.68	
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	2.77	0.98	2.97	0.89	
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	3.07	0.80	2.96	0.82	
5. 子育てをすることにより、自分の仕事が思うようにできなくてもかまわない	2.57	0.88	2.55	0.86	
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	3.43	0.70	3.34	0.73	
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	3.21	0.84	3.39	0.74	*
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	3.44	0.86	3.58	0.66	
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	3.68	0.65	3.76	0.50	
10. 子育ては楽しい	3.59	0.64	3.22	0.68	**
11. 子育ては自分を成長させることができる	3.74	0.58	3.57	0.66	*
12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	3.77	0.54	3.72	0.57	
13. 私は、人づきあいが得意である	2.68	0.78	2.44	0.77	**
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	3.63	0.54	3.49	0.61	*
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	3.42	0.73	3.36	0.76	
Q16. エネルギーを注ぐ程度(10段階)					
1. 仕事	5.18	2.62	5.50	2.75	
2. 家事	4.92	2.37	4.31	2.49	*
3. 自分のため	5.96	2.16	5.49	2.46	
4. 家族や身近な人のため	6.16	1.86	5.87	2.27	
5. ボランティアなど社会的活動	3.22	2.38	2.66	2.25	*
Q16.1~6合計	25.23	6.10	23.74	6.64	*
Q20EPSI合計	135.08	22.60	117.82	23.80	**
Q21SOC合計	57.30	11.12	49.36	9.61	**

*p<0.05,**p<0.01

次世代育成と生活バランスに関するアンケート調査票

あなたの当てはまる項目の番号に○をつけてください。()には、あてはまる言葉や数字を記入してください。SQのついた項目は、あなたが該当する場合のみお答えください。

1. あなたの性別 1 男性 2 女性
2. 年齢 () 歳
3. お住まいの地域 () 都道府県 () 市区町村
4. あなたが最後に学んだ(または現在学んでいる)学校はどれですか。1つお選びください。
1. 中学校 2. 高校 3. 専門・専修学校 4. 短大・高专
5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()
5. お仕事について(兼業の場合は主なもの)1つを選んでください。1および2をお選びの方は、SQ5-1職種にもお答えください。
1. 勤め人(常勤)
2. 勤め人(非常勤・パート)
3. 自営業
4. 会社経営
5. 学生
6. 専業主婦
7. その他 ()

161

SQ5-1 1と2「勤め人」の方は職種について、1つお選びください。

1. 事務 2. 製造 3. 営業・販売 4. サービス業
5. 専門職(看護師、医師、教員等) 6. 技術・研究職 7. その他 ()

6. 結婚について伺います。未婚の方はSQ6-1、2にもお答えください。

1. 既婚 2. 未婚 3. 離別・死別 4. その他 ()

SQ6-1 未婚の方に結婚の意思についてお尋ねします。1つお選びください

1. 結婚する予定がある
2. いずれ結婚したい
3. 結婚はしない、したくない
4. わからない
5. その他 ()

SQ6-2 将来お子さんは何人欲しいですか(欲しくない場合は0)→()人

7. 現在のご家族について、あなたと同居している方すべてに○をおつけください。

1. 父 2. 母 3. きょうだい () 人 4. 配偶者(またはパートナー)
5. あなたのお子さん() 人 6. 祖父 7. 祖母 8. 義父 9. 義母
10. 一人暮らし・兼生活 11. 上記以外の人 ()

1

8. あなたが育ったご家庭は何人家族でしたか。最も多い時期についてお答えください。

1. () 人 家族
2. 家庭以外で育った

9. あなたは、「1人前の大人になる」とはどういうことだと思いますか。大切だと思う順に3つ選んで、()に1~3の順位をつけてください。

1. () 人と調和してやっつけていける
2. () 自分の住まいをかまえる
3. () 自分の意見を主張できる
4. () 自分より年下の人の面倒をみる
5. () 社会的に貢献する
6. () 家族ができる(結婚する・子どもが産まれる)
7. () 判断力・決断力がつく
8. () 周りの人を気遣い、世話をやく
9. () 経済的に親の世話にならない
10. () 自分以外の人を経済的に養うことができる
11. () 自分を客観的に見られる
12. () 社会的常識が身につく
13. () 責任ある行動がとれる
14. () 受容・寛容・我慢強さを身につける
15. () 親から精神的に自立する
16. () その他 []

10. あなた自身が、「自分は大人になった」と感じたのはいつでしたか。1つを選び○をつけ、()にはそれが何歳の時だったかをご記入ください。0をお選びの方は、今後、いつ大人になれると思いますか。1~14から選んで、もう1つ○をつけてください。

0. まだ大人にならなかったと感じていない →今後の予想について以下から1つ選択

1. 中学生になる前→()歳の時
2. 中学生になった時
3. 中学校を卒業した時
4. 18歳になった時
5. 高校を卒業した時
6. 体が大人になったと感じた時→()歳の時
7. 20歳になった時
8. 大学・大学院を卒業した時→()歳の時
9. 仕事についた時→()歳の時
10. 恋人が出来た時→()歳の時
11. 初めてセックスをした時→()歳の時
12. 結婚した時→()歳の時
13. 子どもが生まれた時→()歳の時
14. その他 [] →()歳の時

11. ご両親があなたを大人として扱ってくれるようになるようになったのは、あなたが何歳の頃ですか。ご両親またはいづれかがいらっしゃらない場合は、非該当に○をつけてください。

- 父 1. ()歳のころから 2. いまだに子ども扱いである 3. わからない 4. 非該当
- 母 1. ()歳のころから 2. いまだに子ども扱いである 3. わからない 4. 非該当

2

15. 子育てに関連する以下の文章について、「1そうは思わない」～「4そう思う」のうち、あなたが当てはまる番号1つを選んで○をつけてください。

	1そうは思わない	2あまりそう思わない	3ややそう思う	4そう思う
1. 親になったら、子どものために自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然である	1	2	3	4
2. 親になっても、子育てとは別の自分だけの目標を持つべきである	1	2	3	4
3. 子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	1	2	3	4
4. 子育てをすることにより、自分の自由な時間が減ってもかまわない	1	2	3	4
5. 子育てをすることにより、自分の仕事と思うようにできなくてもかまわない	1	2	3	4
6. 子育てにはお金がかかるがやむをえない	1	2	3	4
7. 子育ては、心理的・肉体的負担が大きい	1	2	3	4
8. 子育ての大変さを、配偶者など周りの人にわかってもらえないのは問題だ	1	2	3	4
9. 子育てには息抜きやリフレッシュが必要である	1	2	3	4
10. 子育てでは楽しい	1	2	3	4
11. 子育ては自分を成長させることが出来る	1	2	3	4
12. 子どもを見ているとおもしろいと感じる	1	2	3	4
13. 私は、人づきあいが得意である	1	2	3	4
14. 人は、社会の中で助け合って生きていくことが望ましい	1	2	3	4
15. 父親も母親も、仕事と子育てなどの家庭生活を両立させることが大切である	1	2	3	4

以下では、仕事・家庭生活・個人生活（休養・余暇）など生活のバランスについて、おたずねします。「家事」や「勉強」などが、仕事か、個人生活か、楽しみかかなどは、あなたの感じているように判断していただいで結構です。

16. あなたは、次のことに、どの程度エネルギーを注いでいると思いますか。世間一般の人の平均を5と考えた時、それ以上か、以下か、該当すると思うところに○をつけてください。

例（一般よりやや多いと思う場合）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1. 仕事										
2. 家事										
3. 自分のため										
4. 家族や身近な人のため										
5. ボランティアなど社会的活動										
6. その他（ ）										

12. 現在あなたは、周囲から「大人」として扱われていないと感じることがありますか。それはどれからですか。対象者が該当しない項目では、非該当に○をつけてください。

	1 ない	2 たまにある	3 時々ある	4 いつもある	0 非該当
1. 先生・上司など目上の人から	1	2	3	4	0
2. 親から	1	2	3	4	0
3. 年上の人から	1	2	3	4	0
4. 恋人または配偶者から	1	2	3	4	0
5. 同年または年下の人から	1	2	3	4	0
6. その他、社会の中で	1	2	3	4	0
7. 上記以外の人（ ）から	1	2	3	4	0

13. あなたは、「自分は社会の一員である」と自覚するのはどのようなときですか。最もあてはまる項目を3つ以内選んで○をつけてください。

1. 家族といるとき
2. 友達や仲間といるとき
3. 仕事・アルバイトなど、働いているとき
4. 学校で勉強しているとき
5. ボランティアなど、社会的な活動をしているとき
6. 電車の中で席を譲るなど、他人のために何かしたとき
7. 税金を払ったとき
8. 選挙のとき
9. 新聞・テレビ・インターネット等メディアに触れているとき
10. その他（ ）したとき
11. 社会の一員と感ずることがない。

14. あなたは以下にあげた世代の継承に関して、どれくらい共感されますか。「1そうは思わない」～「4そう思う」のうちから1つ選んで番号に○をつけてください。

	1そうは思わない	2あまりそう思わない	3ややそう思う	4そう思う
1. 私は、親や上の世代から伝えられる財産（物的）を大切にしたい	1	2	3	4
2. 私は、親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切に、次の世代に引き継ぎたい	1	2	3	4
3. 私は、自分の子どもに限らず、次世代の子どもたちを理解し支援していきたい	1	2	3	4
4. 子どもたちは、次の時代の担い手だから、社会全体がその養育・教育に幅広く責任を持って支援すべきである	1	2	3	4
5. 子どもをほしめ、と思う人が安心して産み育ててゆける環境づくりは、現在の最優先課題である	1	2	3	4

17. 現在、あなたの生活のバランスについて、どのように感じていますか。

1. 満足している
2. まあ、満足している
3. やや不満である
4. 不満である

18. 生活のバランスのとりにかたについて、あなたのお考えに一番近いものを1つ選んでください。

1. 1日のうちで、バランスがとれているのがよい
2. 1週間の間で、バランスがとれているのがよい
3. 1ヶ月くらいの間で、バランスがとれているのがよい
4. 1年間で、バランスがとれているのがよい
5. 一生涯でバランスがとれているのがよい
6. どれかに偏っていてはかまわないと思う
7. 家族全体で、バランスがとれていればよい
8. その他 ()

19. 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。

1. はい
2. いいえ

20. 次の設問では、いろいろな経験や性質、好みなどについての文章があげていきます。それぞれの文章にどの程度当てはまるかを考えて「4」とてもよく当てはまる」から「0全く当てはまらない」までの5つのうち、あなたが最もよく当てはまるところの数字を選んでください。あまり考え込まずに、最初に思ったとおりにお答えください。

	0	1	2	3	4
1 私に、もっと自分をコントロールする力があればよいと思う	0	1	2	3	4
2 良いことは決して長続きしないと、私は思う	0	1	2	3	4
3 私は、世間の人たちを信頼している	0	1	2	3	4
4 周りの人々は、私のことをよく理解してくれている	0	1	2	3	4
5 私には、何事も最悪の事態になるような気がしてくる	0	1	2	3	4
6 世の中は、いつも自分にとってよい方向に向かっている	0	1	2	3	4
7 周りの人たちは、私を理解してくれない	0	1	2	3	4
8 私は、何事にも優柔不断である	0	1	2	3	4
9 私は、決断する力が弱い	0	1	2	3	4
10 私は、自分という存在を恥ずかしく思っている	0	1	2	3	4

	4	3	2	1	0
11 私は、自分で選んだり決めたりするのが好きである	4	3	2	1	0
12 私は、自分の判断に自信がない	4	3	2	1	0
13 私は、この世の中であまりよくやっつけていこうなどは決して思わない	4	3	2	1	0
14 私は、物事をありのままに受け入れることが出来る	4	3	2	1	0
15 私には、みんなが持っている能力が欠けているようである	4	3	2	1	0
16 私は、誰か他の人がアイデアをだしてくれることをあてにしている	4	3	2	1	0
17 私は、多くのことをこなせる精神的な人間である	4	3	2	1	0
18 たとえ本当のことであっても、私は否定してしまうかもしれない	4	3	2	1	0
19 私は、リーダーというよりも、むしろ後に従っていくほうの人間である	4	3	2	1	0
20 私は、いろんなことに対して罪悪感を持っている	4	3	2	1	0
21 私は、してはいけないことに対して、自分でコントロールできる	4	3	2	1	0
22 私は、いっしょけんめいに仕事や勉強をする	4	3	2	1	0
23 私は、自分が役に立つ人間であると思う	4	3	2	1	0
24 私は、目的を達成しようとはがなばっている	4	3	2	1	0
25 私は、自分の仕事をうまくこなすことができる	4	3	2	1	0
26 私は、物事を完成させるのが苦手である	4	3	2	1	0
27 私は、のらりくらりしながら多くの時間をむだにしている	4	3	2	1	0
28 私は、頭を使ったり、技術のいる事柄はあまり得意ではない	4	3	2	1	0
29 私は、自分が何になりたいのかをはっきりと考えている	4	3	2	1	0
30 私は、自分が混乱しているように感じている	4	3	2	1	0
31 私は、自分がどんな人間であるのかをよく知っている	4	3	2	1	0
32 私は、自分の人生をどのように生きたいかを自分で決められない	4	3	2	1	0
33 私は、自分のしていることを本当はわかっている	4	3	2	1	0
34 私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている	4	3	2	1	0
35 私には、充実感がない	4	3	2	1	0
36 誰かに個人的な話をされると、私は当惑してしまう	4	3	2	1	0
37 私は、特定のひとと深いつきあいができる	4	3	2	1	0
38 私は、あたたかく親切な人間である	4	3	2	1	0
39 私は、もともと1人ぼっちである	4	3	2	1	0
40 私は、他の人たちと親密な関係を持っている	4	3	2	1	0

8. あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか	1	2	3	4	5	6	7	まったくない
9. あなたは、本当な感じたくないような感情をいだいてしまうことがありますか	1	2	3	4	5	6	7	まったくない
10. どんなに強い人さえ、ときには「自分はダメな人間だ」と感じることはありますか。あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか。	1	2	3	4	5	6	7	まったくない
11. 何かが起こったとき、ふつう、あなたは、そのことを過大に評価したり、過小に評価してきた	1	2	3	4	5	6	7	適切な見方をしてきた
12. あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がない、と感じることがありますか	1	2	3	4	5	6	7	まったくない
13. あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがありますか	1	2	3	4	5	6	7	まったくない

22. 以下の表にあげた1.~6.の項目は平成18年6月、政府・与党が発表した「新しい少子化対策」の一部です。これらが実現した場合について、次の設問にお答えください。

- (1) わが国で子どもを産む人がふえると思いますか
 (2) あなた自身は、予定より多くのお子さんを持とうと思えますか。あるいは、もつと以前からこの対策がとられていたら、より多くのお子さんを持つていたと思えますか。

	(1) わが国で			(2) あなたご自身は		
	1. はい	2. いいえ	3. わからない	1. はい	2. いいえ	3. わからない
1. 妊娠中の健診費の負担軽減	1	2	3	1	2	3
2. 出産育児一時金の支払い手続きの改善	1	2	3	1	2	3
3. 児童手当の乳幼児加算	1	2	3	1	2	3
4. 子育てを支援する税制	1	2	3	1	2	3
5. 企業の子育て支援の取り組みの促進	1	2	3	1	2	3
6. 長時間労働の是正等働き方の見直し	1	2	3	1	2	3

23. 上記以外に、もつと優先すべき政策についてのご意見がありましたら、お書きください。

ご協力ありがとうございました

41 私には、他の人よりも目立つのを好まない	4	3	2	1	0
42 私には、他の人たちとなかなか親しくなれない	4	3	2	1	0
43 私には、後輩や部下のめんどうをよく見る	4	3	2	1	0
44 私には、将来に残すことのできる業績をあげつつある	4	3	2	1	0
45 私には、よい親である(親になる)自信がある	4	3	2	1	0
46 私には、後輩や部下を指導するのが苦手である	4	3	2	1	0
47 私には、自分を甘やかすところがある	4	3	2	1	0
48 私には、親であること(親になること)が不安である	4	3	2	1	0
49 私には、未来を担う子どもたちを育てていきたいと思う	4	3	2	1	0
50 私には、自分が死ぬことを考えると不安である	4	3	2	1	0
51 私には、これまでの人生は、かけがえのないものだと思う	4	3	2	1	0
52 私には、生きがいを感じてしまっている	4	3	2	1	0
53 私には、悔いのない人生を歩んでいる	4	3	2	1	0
54 私には、自分の死というものを受け入れることができる	4	3	2	1	0
55 私には、もつと別の生き方があるのではないかと思う	4	3	2	1	0
56 私には、失敗の連続のように思う	4	3	2	1	0

21. あなたの人生に対する感じ方について質問します。各問で1から7までのうち、1に書いてある事が、あなたに完全にあってはまるならば、1に○をつけてください。7に書いてある事が、あなたに完全にあってはまるならば、7に○をつけてください。1でも7でもないように感じるならば、あなたの感じ方に最も近い番号を1つ選んでください。答えは、1つだけ選んでください。

1. あなたは、自分のまわりで起こっていることがどうでもいい、という気持ちになることがありますか	1	2	3	4	5	6	7	とてもよくある
2. あなたは、これまでによく知っていると思っていた人の、思わぬ行動に驚かされたことがありますか	1	2	3	4	5	6	7	いつもそうだった
3. あなたは、あてにしていた人に、がっかりさせられたことがありますか	1	2	3	4	5	6	7	いつもそうだった
4. 今まで、あなたの人生には、明確な目標や目的が	1	2	3	4	5	6	7	あった
5. あなたは、不当な扱いを受けているという気持ちになることがありますか	1	2	3	4	5	6	7	まったくない
6. あなたは、不慣れた状況にいると感じ、どうすればいいのかわからない、と感じることがありますか	1	2	3	4	5	6	7	まったくない
7. あなたが毎日していることは	1	2	3	4	5	6	7	つらく退屈である